

●今日の声かけ いきいき未来●

# 愛育

NO.

36

2012

発行 / 2012年12月  
編集発行 / 社会福祉法人  
恩賜財団母子愛育会愛育推進部  
〒106-8580

東京都港区南麻布 5-6-8

TEL 03-3473-8335

FAX 03-3473-8454

URL <http://www.boshiaiikukai.jp/>

Email [suishin@boshiaiikukai.jp](mailto:suishin@boshiaiikukai.jp)



### <第44回愛育班員全国大会> 関連記事 P2~4

① 受賞された皆さまです。おめでとうございます。 ② 第1部式典の様子

### <第51回愛育班長研修会> 関連記事 P5

③ 班長経験者から、班長の役割と活動の実際について学びました。

④ 少人数でしたが、課題を共有し合い、有意義な学びの場となりました。

### <第51回愛育班等組織育成者研修会> 関連記事 P5

⑤ 愛育病院看護部長より、愛育病院における周産期医療の取組みについて説明を受け、その後院内見学をしました。

⑥ 日頃の活動をどの様に評価し、次へと続けていくか。「愛育班活動の評価」と題して、日本子ども家庭総合研究所齊藤進主任研究員より講義を受けました。

### <岡山県玉野市愛育委員協議会における禁煙啓発活動> 関連記事 P6

⑦ 玉野市愛育委員協議会の皆さま。 ⑧ 早朝にも関わらず、笑顔で活動している愛育委員の皆さんがとても印象的でした。

# 第44回愛育班員全国大会

今年もさる4月18日(水)

明治記念館において、  
愛育班員全国大会が開催されました。

さる4月18日(水)明治記念館において、秋篠宮紀子殿下のご臨席のもと、愛育班員等530人の参加を得て第44回愛育班員全国大会を開催いたしました。

第43回大会が東日本大震災における諸般の状況を考慮し、中止したため、2年ぶりの開催であるとともに、秋篠宮紀子殿下を総裁にお迎えしてから初めての大会となりました。

愛育班活動の歴史は長く今年で76年を迎えます。愛育班員全国大会は昭和44年の第1回開催以来、今年で44回になりました。愛育班員は母子保健・福祉の向上はもとより、高齢者の健康づくり活動など、地域住民の健康づくり推進のため、暮らしに根付いた地道な活動を行っています。

この大会は愛育班員の日々のボランティア活動に感謝の意を表し総裁表彰・会長表彰を行うとともに、愛育班員ならびに関係者の方々との交流を図り、愛育班活動の充実・発展を目的に行われています。

また、大会当初から全国の班員さんから愛育班活動の手記を募集し、日ごろの実践活動や愛育班活動に対する想いなどを寄稿していただいています。

総裁表彰・会長表彰を受賞された方々は、第1部式典前に総裁とのご歓談と記念撮影を行い、総裁から日ごろの活動への励ましのお言葉を賜りました。

その後、第1部式典では、上村一会長の



総裁表彰を受賞した、埼玉県白岡市母子愛育会。総裁より表彰状を受け取る会長の五十嵐泰子さん。



会長表彰(愛育班員)を受賞した、岡山県備北保健所高梁愛育委員会の穴田英子さん。



会長表彰(育成者)を受賞した、山梨県福祉保健部の都築和子さん。



模範愛育班の指定を受けました。  
右、埼玉県白岡市母子愛育会  
左、山梨県南アルプス市愛育連合会

あいさつ、総裁のおことばに続いて、総裁表彰(1団体、埼玉県白岡市母子愛育会)、会長表彰(愛育班員10人、育成者2人)、模範愛育班指定(2か所)が行われました。特別来賓の祝辞のあと、愛育班員の手記優秀作「愛育班活動をして思うこと」(秋田県湯上市愛育会 秋山秀子さん)「流るる日々と

愛育会と私」(香川県三豊市愛育会 多田真弓さん)の朗読発表がありました。沢山の応募作品の中から優秀作2篇、佳作2篇が選定されました。

第2部特別講演は、昭和女子大学学長の坂東眞理子氏が「親の品格」と題してご講演されました。子どもが自立できるように子育てすることは大切であるが、加えて人への思いやりやコミュニケーションが豊かにできるように育てることが重要であるとお話をいただき、日ごろの愛育班活動への参考にすることができました。

第3部「愛育のつどい」は、古川貞二郎理事長のあいさつ・乾杯で始まり、短時間ではありましたが、軽食を摂りながら互いに交流を深めるとともに和やかに歓談するなど楽しいひとときを持つことができました。その後、母子愛育会愛育推進部顧問である、衛藤隆日本子ども家庭総合研究所長が閉会のあいさつをし、大会を終了いたしました。

大会終了後、総裁表彰・会長表彰、手記の入選者、指定模範愛育班の方々、明治記念館の素晴らしい庭園で写真撮影を行うとともに、お庭を散策するなど素敵なひと時を過ごしました。

その後、総裁表彰者・会長表彰者受賞者ならびに、同伴の方々は、皇居特別地区を参観しました。快晴にめぐまれ、新緑の皇居を見学しながら明日への英気を養うことができました。

現在、愛育班活動への期待が高まっております。愛育班活動がさらに充実する様に、全国の愛育班活動を行っている皆様と力をあわせて愛育班活動の充実と発展を図ってまいりたいと思っておりますので、関係機関・関係者の方々のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



「愛育班員の手記」優秀作を朗読する、  
香川県三豊市愛育会の多田真弓さん。



「愛育班員の手記」優秀作を朗読する、  
秋田県湯上市愛育会の秋山秀子さん。



謝辞を述べる香川県綾川町母子愛育連絡  
協議会の山下倫子さん。



第2部特別講演「親の品格」と題して、  
昭和女子大学学長の坂東眞理子さん  
にご講演いただきました。

第3部愛育のつどいの様子。大勢の方  
にご参加いただきました。



## 第44回 愛育班員全国大会 総裁（秋篠宮 紀子 殿下）お言葉 要旨

平成24年4月18日

本日、第四十四回愛育班員全国大会に出席し、全国各地から参加して下さった皆様方にお会いできましたことを大変嬉しく思います。  
私は、三笠宮妃殿下の後をお受けし、一昨年年十月に、恩賜財団母子愛育会の総裁に就任いたしました。

この間、昨年三月十一日には東日本大震災が発生し大きな被害をもたらしました。この震災に当たっては国の内外から多くの心温まるお見舞いや励まし、そして支援が行われてきました。

母子愛育会においても他の団体とも協力し、被災した子どもたちを対象にしたニコニコキャンペーンを実施するなど積極的な支援活動を行ってまいりました。

皆様方すでにご承知のとおり、母子愛育会は、昭和八年十二月、天皇陛下がお誕生になられましたとき、母と子が健やかに、幸せに生きることを願われた昭和天皇の深い思召しによって昭和九年三月に設立されております。当時、日本の乳児死亡率は極めて高く、母と子の保健や福祉の施設が殆ど未整備の状況にありましたが、このような状況の中で、母子愛育会は母子保健の向上を目指して、愛育病院の整備を図るとともに、研究研修活動や愛育班活動の推進に力を入れてまいりました。

とくにこの愛育班による事業は、本会が設立されて直ぐに行われた調査研究の結果、乳児死亡率は農山漁村に高いことが判明しましたので、その改善を図るため、町ぐるみ村ぐるみで地域活動に取組もうという考えのもとに始められ、今日まで七十余年に及ぶ母子愛育会の歴史とともに歩んできたとても素晴らしい伝統をもった事業であると承知しております。

この間、社会や経済の変化さらには人々の意識が大きく変わっていく中で、時代の要請に因應して、地域活動を進めていく苦労は並大抵のものではなかったと思います。

今日、この大会で表彰を受けられる方々は、永年にわたり夫々の地域でご苦労を重ねながら愛育班活動を実践し、またこの活動を指導し大きな成果を上げられた方でございます。そのご努力に対し心から敬意と感謝を申し上げます、今後ますますのご活躍を期待します。

今日、日本の母子保健の水準は世界に誇れる状況にあるといえるのでございますが、その一方で新しい、難しい問題が生じております。それは少子化問題であり、周産期医療の充実と孤立するお母さん方に対する子育て支援が早急に求められています。母子愛育会が、愛育病院を周産期医療と小児救急医療のモデルとなる新しい構想をもとに整備を進めているのもそのためであるとうかがっております。

さらに地域では少子化とともに高齢化という深刻な問題がこれに加わっております。声かけや交流会などの活動を通じて「地域での子育て」を支援するとともに、高齢の方々を対象にした「住み慣れた地域で健やかに暮らしていく」ことができるようにすることが、いま愛育班活動に求められているのではないのでしょうか。そのことはまた、私が総裁をしている結核予防会のご婦人方の活動にも通ずるところがあるように思います。

本日、ご参加下さいました皆様、全国の愛育班員の皆様、またこの活動を支援いただく皆様、今日のこの大会を契機に、改めて「愛育の心」を基本理念とする愛育班活動の役割に思いをいたし、力を合わせ、その発展と充実のために努力されることを希望いたします。

総裁表彰を受賞された埼玉県白岡市母子愛育会会長の五十嵐泰子さんはじめ、受賞者の方からの感想をご紹介します。

今回総裁表彰を受賞できたことは大変名誉な事で、何よりうれしい事は昭和11年に愛育村の指定を受けて以来活動を続けてきた班員のため努力が認められての受賞という事です。75年という長い歴史の中には、戦後の復興など、本当に厳しい時代もあったことと思います。

当愛育会では難しい事は班員みんなが話し合うということが習慣になっています。こうした習慣は厳しい時代を乗り越えてきた諸先輩方から受け継いだものです。そして、「愛育の灯」というたすきをつないできたからこそ、厳しい時代を乗り越え、現在の愛育会があるのだと、改めて諸先輩方に感謝しております。

総裁とご歓談の折には、総裁から「これからも高齢者や子どもたちを見守り、地域のために愛育会活動を頑張ってください」とのお言葉をいただき大変感激しました。

このときの感動を班員に伝えるとともに、原点に立ち返り「声かけと笑顔で結ぶ愛育会」をスローガンに活動し、地域の輪を大切に「愛育の灯」をつないで行きたいと思えます。

※今まで先輩達から受け継いだ「愛育の灯」

を守るため夢中で活動してきました。今回の受賞は、保健師さん達のご指導と他班員達がよく協力して下さったお陰だと感謝しています。総裁から直接お声をいただいた事は、この上ない喜びでした。この喜びを糧として、今後も頑張っていきたいと思えます。

※私たちの愛育班は県内に二班しかないの、他の愛育班がどの様な活動をしているのか知ることがあまりできませんでした。今回全国大会で他県の方達と話をし、今後活動の参考になるような話も聞けて良かったです。

※総裁とのご歓談の際に、地元の愛育班活動の紹介をさせていただきました。総裁は優しくうなずいてくださり、与えられたこの荣誉に感動しました。今後ますます高齢化社会になるので、地域の健康づくりの輪を広げるお手伝いができればと痛感しています。

※全国大会に出席し、全国の活動状況を知り、私の活動はこれで良かったのだろうかかと反省しました。わが町では愛育班活動の他にも、婦人会やJA関係の組織活動に参加していますが、どの組織も活動する人は高齢になり、後継者不足に悩まされています。地区の愛育班でも、後継者不足から、解散の危機にありましたが、

私が元気なうちは何とか続けようと思えます。

※全国大会で総裁表彰を受けた埼玉県白岡市母子愛育会が、昭和11年から活動していること知り、敬意を表します。また、今回の全国大会に出席してみても、未だ愛育班組織が結成されていない地域にも、一日も早く愛育班組織が創設されることを強く願っています。

※総裁ご臨席の全国大会において、表彰の荣誉を賜り、この上ない喜びでいっぱいでした。総裁とのご歓談では、激励とねぎらいのお言葉を賜り、感激もひとしおでした。

また、皇居特別地区参観をさせていただき、家族共々幸せな一日でした。愛育班活動に尽力された班員の皆様のお力や関係機関の方々に深く感謝し、心からお礼申し上げます。

※4月18日は荣誉ある日となりました。また、長い愛育班活動の一端に保健師として共に活動できたことに感謝し、これからも素晴らしい活動が継続されるよう願っています。



## 表彰を受けられた方々です。おめでとうございます。

### 総裁表彰

#### 埼玉県白岡市母子愛育会

(平成24年10月1日の市制施行により、白岡町は白岡市になりました)

### 会長表彰<愛育班員>

#### 石山美恵子

(秋田県大仙市神岡愛育会)

#### 安田 洋子

(秋田県湯上市湖岸地区愛育班)

#### 永久保美代子

(福島県田村市大越母子愛育会)

#### 高橋 信子

(埼玉県久喜市母子愛育会葛蒲支部)

#### 青木千代子

(埼玉県杉戸町母子愛育会)

#### 池谷 明美

(兵庫県たつの市新宮東栗栖地区愛育班)

#### 松本 幾恵

(兵庫県豊岡市竹野愛育班)

#### 穴田 英子

(岡山県備北保健所高梁愛育委員会)

#### 山下 倫子

(香川県綾川町母子愛育班連絡協議会)

#### 岡崎ツユ子

(大分県武蔵町愛育会)

### 会長表彰<育成者>

#### 都築 和子

(山梨県福祉保健部)

#### 明石 弘子

(岡山県備中保健所)

(敬称略)

## 第51回愛育班長研修会、 第51回愛育班等組織育成者研修会

今年も東京南麻布の母子愛育会において、愛育班長研修会及び愛育班等組織育成者研修会が開催されました。愛育班長研修会には4県6名、愛育班等組織育成者研修会には5県9名の方にご参加いただきました。



第51回愛育班長研修会  
埼玉県白岡市母子愛育会の皆さまと。

研修会は少人数ではありませんでしたが、参加者が机を囲みながら活動状況を報告し合い、また日頃の活動における疑問点を全員で共有したりと、参加型の研修会となり、とても白熱した意見交換が交わされました。

両研修会共に、四日間の研修課程のうち、前半の二日間は東京で愛育班活動の歴史や基礎を学び、三日目に研修会の特徴的プログラムである愛育班活動見学として、愛育班長研修会では埼玉県白岡市母子愛育会、愛育班等組織育成者研修会では山梨県南アルプス市愛育会へ行きました。両愛育会は平成24年模範愛育班の指定を受けており、先駆的な活動を続ける愛育班です。受講生にとっては実際の活動を肌で感じて、日々の自分達の活動を振り返る良い機会となった様です。そして、最終日に東京で研修のまとめを行い今後の活動課題や抱負を共有し閉講しました。

### 愛育班長研修会を受講した感想

□今回研修会に参加して、何よりもいろいろな方にめぐり逢えた事、そして、他県の参加者との情報交換は、とても新鮮でした。同じ悩みを持ちながらも、地域に合った愛育班活動を住民の中心となり行っている事に感動しました。多くの人を引きつけて活動に近づけていく力が永く続く原動力になっている様な気がしました。自分自身も楽しみながら、コツコツとやって行こうと思えました。

□班長を受け継いだばかりの私が参加しても良いのか迷いましたが、折角のチャンスと思い、愛育班活動の意味を勉強する為に参加させて頂きました。地域の様々な活動や参考になる事、歴史があり、受け継いできた愛育班員さん達の弛まぬ努力があったからだ、と、感動しました。

□今回の研修会では他県の愛育班員の活動をしっかりと学ばせて頂きました。参加者と共に楽しいディスカッションが出来た事も貴重な体験でした。地元を持ち帰り、しっかりと伝達したいと考えています。

### 愛育班等組織育成者研修会を受講した感想

□地域のために愛育班活動の重要性を強く感じ、愛情をもらい、与え合えるというつながりが必要な世の中であることを再認識しました。班員さんの気持ちや声を今までより意識して聞き、主体性を持ちつつも、一体となって取り組んで行きたいです。

□班長さんから「活動には波がある。細くても続けていくことで、人や世の中の事情も変化してくるから、続けていくことが大切。負担がありすぎると辛くなってしまうので、できることをコツコツやって行け

ばい。班員が楽しめるものを」と伺い、できることを楽しんでもらえるようにしたいと思えました。また、活動の基本を再認識することができたので、基本はぶれずに活動してもらえような声を班員にしていきたいです。育成者としては、まだ余り自信はないですが、だからこそ班員や他の職員とも話し合いながら、方向性を見出せると良いと思います。班員になって良かった、楽しかったと言ってもらえるような活動にして行けるように頑張りたいです。

□後継者を探すためにも、愛育班の成り立ち、活動、心について、住民にも周知できれば良いと思えました。愛育だよりを発行していなかったたので、活動の実績、愛育班の歴史について載せ、愛育だよりを発行したいです。



第51回愛育班等組織育成者研修会  
山梨県南アルプス市愛育連合会の皆さまと。

## 各地の愛育班活動

### 岡山県玉野市愛育委員協議会における禁煙啓発活動について

毎年世界禁煙デーに併せて、玉野市教育委員会の協力のもと、市内全中学校に愛育委員が出向き、生徒に喫煙による健康被害についてのパンフレットの配布や、家族の禁煙啓発のためのティッシュの配布を行っています。

玉野市愛育委員協議会では、タバコの害から子ども達や地域の健康を守るため、また家庭内の禁煙が若年からの喫煙経験につながることから、将来吸わない世代づくりを目指して平成7年から禁煙啓発活動を続けています。

活動の発端は、玉野市愛育委員協議会で年間を通して行える活動はないかと模索し



笑顔で挨拶を交わす姿がとても印象的でした。

ている時、中学校でかくれてタバコを吸っている生徒がいるので、タバコの害について子ども達に周知する活動を行いたいと声が上がったことがきっかけとなり始まりました。開始当初は、16歳児健診、3歳児健診会場などでアンケートを実施し、チラシや愛育委員お手製のやつこさん人形を配布しながら禁煙啓発活動を行ってきました。その後、駅前や商業施設等でチラシやティッシュを配布し、平成21年には、市内全中学校生徒を対象に、喫煙に関するアンケートを実施しました。その結果、小中学生でも喫煙経験のある児童生徒がいることがわかり、より若年での喫煙防止への啓発が必要だとわかりました。

—あの子もこの子もみんなの子、地域を見守る大切な活動へと発展して行きました。—

中学生への喫煙防止啓発当日は生徒が登

校するよりも前に中学校の校門へ集合し、禁煙を促すのぼり旗を掲げ、配布の準備に取り掛かっていました。

早朝にも関わらず、多くの愛育委員の皆さんが集合し、登校してくる生徒一人一人に笑顔で丁寧な声かけをしている姿がとても印象的でした。校門で多くの愛育委員に囲まれて、とても照れくさそうにしている生徒もいれば、愛育委員と一緒に校門に並び、ティッシュの配布を手伝う生徒も見られました。

配布する愛育委員の方々も、子ども達が年々少なくなってきたので、子どもと接する活動はともやりのやりのがあり、地域の子どもは地域全体で育てて行くことが大切だと思ってお話下さいました。玉野市をはじめ、地域にこの様な愛育班組織があることは、地域の財産だと思います。

玉野市愛育委員協議会の様に、愛育委員協議会だけでなく、地元教育委員会など、地域全ての人と協同で行うことが大切な

だと感じました。そのためには、地域全体を見渡す広い視野が必要になってくると思います。愛育班活動の原点である、地道にコツコツと続けることの大切さを学ぶことができました。

ティッシュを受け取った生徒に、禁煙啓発活動について感想を聞いてみました。

「禁煙活動はとても大切な活動なので、今後も続けて欲しい」(女子生徒)

「母親が家族で唯一喫煙するので、母親が吸う時は換気扇の下に行くようにしてもらっている。本当は、喫煙は健康を害するので、母親にも禁煙して欲しい。帰ったらこのティッシュを渡して禁煙について話したいと思う」(男子生徒)

「活動していた愛育委員の人は、普段からお店などで会った時にあいさつをする間柄なので、今日の禁煙啓発活動も特別なものには感じなかった。愛育委員の人には、普段から見守られている感じがして良い」(男子生徒)



生徒一人一人に禁煙について呼びかけていました。



## 恩賜財団 母子愛育会 愛育推進部長

# 就任の「ごあいさつ」

全国の愛育班活動をされている皆様方におかれましては、地域社会のために日頃からご尽力いただき心から感謝申し上げます。

母子愛育会愛育推進部長に就任いたしました。早いもので約半年がたちました。4月18日の愛育班全国大会をはじめ、各支部、連合会の愛育班総会および研修会等に参加させていただき、多くの愛育班員さんと交流させていただく中で、愛育班活動の素晴らしさや重要性を学ばせていただきました。

愛育班員さんが地域の子ども達が健やかに成長することを願って、七夕やお月見などの子育て広場を開催したり、出生数が少ないからこそ、地域の中で子どもを大切に育てようと地域が一丸となって声かけ・見守りを行ったり、裁縫が得意な班員さんは布絵本を作成し読み聞かせを行うなど、素晴らしい多くの活動を体験させていただきました。

乳幼児期の子育て支援は、三つ子の魂百までもと言われる様に人間の基礎を育む大切な時期で、地域で生まれた子ども達が健やかに成長する様に支援することは、豊かな地域社会づくりの礎となることから、愛育班活動としても重要な活動です。

また過疎の地域では、一人暮らしのお年寄りに愛育班員さんが言葉かけをすることで、「久しぶりに人と話した」など孤独なお年寄りから感謝されたり、地域の健康づくりのための禁煙活動やがん健診の受診勧奨、健康づくり体操などの活動を行っているお姿を見し、愛育班活動は病気の予防や介護予防そして孤独死防止につながっていることがよく解りました。

今年度の班長研修の参加者の方が、地域の中の一人暮らしの高齢者の方がトイレに入りおしりを拭けないと愛育班員さんに電話がかかってくるので、そのお宅にお伺いしておしりを拭いてさしあげているとお話を伺いました。このお話を伺った時は、目頭が熱くなったことを覚えています。

この様な活動の中で、愛育班員さんは、自ら楽しく、そして地域の人々のお役にたてることを喜びとして活動している姿は、本当に心を打たれるものがあります。

そして、これらの活動は、人と人との絆を強くし地域社会を豊かにする大切な活動であると強く認識しているところです。

24年度の全国市町村愛育班組織調査では、22県、154市町村、約4万2000人の班員さんが活躍しています。一時期からみますと班員さんの数は減少し、班員の高齢化、役員の成り手がいない、新しい人が班員にならないなどの課題は出されていますが、熱心に活発に活動されている班員さんも多くいらっしゃいます。その方々は「無理なく、楽しく」をモットーに活動され、活動内容も自分達で話し合いを重ね、主体的な活動をされています。

そして、それを側面から保健所や市町村の保健師さ

んが支援し、車の両輪となって活動されており、保健師さんとの連携は大変重要で、愛育班活動はこの連携なしには成り立たないと言っても過言ではないと思います。

日本の社会は少子高齢化社会が進み、行政サービスだけでは対応できない社会になると言われています。厚生労働省では地域の人々同士が支え合う「ソーシャル・キャピタル」の推進の重要性を強調しています。まさに愛育班活動は「ソーシャル・キャピタル」そのものであり、これからの少子高齢化の日本社会では愛育班活動は大変重要な活動です。

愛育班活動を全国の愛育班員さん方や育成者である保健師さん方と力をあわせて、活動がさらに活発に行われる様に務めてまいりますので、皆様方のお力添えをよろしく願いいたします。



大場 エミ

岩手県宮古市出身 保健師  
昭和49年4月、東京都港区に入職。  
昭和54年4月より、神奈川県横浜市に移り、  
平成24年3月末に退職。  
退職時、横浜市南区福祉保健センター長。  
また、全国保健師長会会長を平成19年4月  
より23年3月末まで務める。  
平成24年4月より現職。

## ★ インフォメーション ★

### 第45回愛育班員全国大会のご案内

平成25年4月17日水曜日に、東京元赤坂の明治記念館にて、第45回愛育班員全国大会を開催いたします。特別講演には、NPO法人Fathering Japan 副代表の安藤哲也氏をお招きして、「パパの子育て参加への応援～パパが子育てで輝くために～」と題してご講演いただく予定です。

皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 平成25年4月17日 水曜日 午前10時から

場 所 明治記念館 富士の間

(東京都港区元赤坂2-2-23)



### 第52回愛育班長研修会、第52回愛育班等組織育成者研修会のご案内

第52回愛育班長研修会、第52回愛育班等組織育成者研修会を下記の通り開催いたします。また、愛育班長研修会は、研修開催日数について皆様から、日数が長く参加しにくいとのご要望をいただいております。そこで、より多くの方にご参加いただくためにも、研修開催日数を4日間から3日間に変更しました。研修会の詳細は、決定次第母子愛育会のホームページにてお知らせいたします。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

	愛育班長研修会	愛育班等組織育成者研修会
実施期間(予定)	平成25年7月3日(水)～5日(金)	平成25年8月27日(火)～30日(金)
申込締切日	平成25年5月27日(月)	平成25年7月22日(月)
対象者	単位愛育班の班長	保健師
受講料	無料(別途見学交通費がかかります)	無料(別途見学交通費がかかります)

### リーフレット「ご存知ですか?愛育班」無料配布について

愛育推進部では、愛育班活動をわかりやすく紹介したリーフレットを作成し無料配布しております。愛育班活動を介绍する際などにお役立てください。リーフレットの申込は、母子愛育会のホームページから、専用申込書をダウンロードし、下記宛にFAXにてお送りください。



### ハンドブック作成「知ろう・活かそう 地区組織～コミュニティワークの実際～」



愛育班の育成に携わっている方を始め、地区組織を担当している方のために、基本から分かりやすく説いたハンドブック「知ろう・活かそう 地区組織～コミュニティワークの実際～」(A5版209頁)を発行しました。近年の母子保健福祉や地区組織を取り巻く環境の変化を勘案し、「愛育班育成者の手引き」の改定に加え、地区組織活動の基本的な知識と組織の活性化についてや、保健師としての地区組織へのかかわりについてなど、より多くの方に役立てていただける内容です。母子愛育会のホームページから専用のお申込用紙をダウンロードしてお使いください。1冊 1,000円 送料は別途ご負担ください。

リーフレット「ご存知ですか?愛育班」

ハンドブック「知ろう・活かそう地区組織～コミュニティワークの実際～」お申込・お問合せ先

母子愛育会愛育推進部 TEL03-3473-8315 FAX 03-3473-8454 URL <http://www.boshiaiikukai.jp/>

### 編集後記

玉野市愛育委員協議会の活動を取材させていただきました。その際に、喫煙する若い母親が多いことを知り驚かされました。男子中学生の「母親が唯一家族で喫煙するが、健康を害するので本当は禁煙して欲しい。帰宅後母親に禁煙について話をしてみようと思います」と語ってくれたことがとても印象深く、心に焼き付いています。大人として子どもたちをリードしなくてはならないのに、しかし、この様に子どもの禁煙に対する意識が高いということは、地道に禁煙啓発活動を続けてきた愛育委員さんの努力の賜物だと実感しました。素晴らしい活動を目の当たりにすることができ、大変勉強になりました。(H・N)